

守谷市いじめ防止フォーラム

いじめ防止フォーラム推進事務局 守谷中学校 教頭 越智壽雄
愛宕中学校 教諭 中村進一

1 目的

- 各学校の生徒会活動で中心になっている生徒会役員等が集い、自分たちの学校での実践発表を行い、活動における目的や思いを共有し、守谷市全体でいじめ防止に向けて何が共通実践できるかを考える。
- 「Moriya いじめ防止共同スローガン」を採択し、市内外に向けて発信することで、児童生徒自身に「いじめは絶対に許さない、あってはならない」という強い意志をもたせる。
- 市保幼小中高一貫教育の中で、市内全ての学校が将来にわたって「いじめ防止」に向けて共通理解し、それを基にした取組を継続していく契機とする。

2 実施日時 平成26年8月27日（水） 9：30～11：50

3 場所 守谷市中央公民館

- 4 参加者
- ・守谷市内各小学校児童代表3～5名，特別活動（児童会等）担当教諭
 - ・守谷市内各中学校生徒会本部役員（代表者はそのうちの3名），特別活動（生徒会）担当教諭
 - ・県立守谷高校生徒会本部役員（代表者はそのうちの3名），特活部教諭
 - ・市生徒指導連絡協議会の構成員
 - ・市内小中校長・教頭
 - ・市内教務主任代表
 - ・市教育委員会
 - ・フォーラム推進事務局
- ※来賓，一般参加者（保護者含）

5 フォーラムの実施まで

月 日	曜	場	内 容
～6 / 4	水	事務局	事務局原案の作成。関係機関へ連絡を行い、助言・指導を受け、案を完成する。
6 / 5	木	市教頭会 市教務主任会	原案を提示し、市内小中全校に周知する。
6月中旬		事務局	守谷高校・市教委指導室への協力依頼と内容説明を行う。
6 / 26	木	市一貫教育企画部会	フォーラム実施に向けての進捗状況を報告すると共に、懸案事項について検討し指導を受ける。
7 / 2	水	事務局 指導室	中央公民館にて会場確認を行い、実施計画の細部を詰める。
～7 / 7	月	事務局	実施計画第4案を完成する。守谷高校との打合せを行う。
7 / 8	火	市教頭会 市教務主任会	第4案を市内小中全校に周知すると共に、案内文書・派遣文書を送付する。
7 / 22	火	実行委員会	各小中高担当者・指導室・事務局の参加の下、当日の内容・流れの確認と懸案事項の検討、当日までの準備について話し合う。
～8 / 19	火	各校担当者	発表プレゼンテーションの作成と発表指導を行う。
		事務局	各校プレゼンテーションの取りまとめと台本作成をする。
8 / 20	水	実行委員会	各校児童会・生徒会担当，指導室，事務局，小中高の児童生徒の参加の下，事前打ち合わせとリハーサルを行う。
～8 / 26	火	各校担当者	リハーサルを受け，発表内容・プレゼンテーションの改善，指導を行う。
		事務局 教頭会	各校プレゼンテーション・台本の書き換えと最終確認を行う。 前日は会場準備・視聴覚機器の確認を行う。

6 プログラム

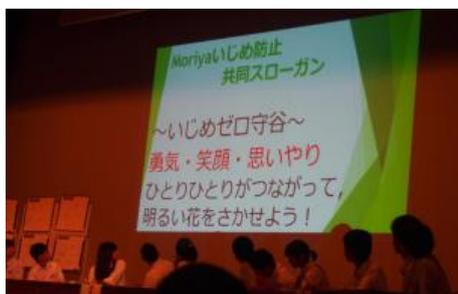
- (1) 始めのことば（守谷小代表児童）
- (2) 「いじめについて」の実行委員からの発表（守谷高校生徒会）
- (3) 各小学校での取組発表（大井沢小→大野小→高野小→守谷小→黒内小→御所ヶ丘小→郷州小→松前台小→松ヶ丘小）
- (4) 各中学校・守谷高校での取組発表（守谷中→愛宕中→御所ヶ丘中→けやき台中→守谷高）
- (5) 各校の取組に対する意見交換（各中高代表生徒）
＜各校のスローガン原案の記入・掲示＞
- (6) 「Moriya いじめ防止共同スローガン」採択への話し合い（各校代表児童生徒）
- (7) 「Moriya いじめ防止共同スローガン」の発表（守谷高校生徒会）
- (8) 「Moriya いじめ防止共同スローガン」を基に各校で行う取組についての決意表明
- (9) 今回のフォーラムについての感想（小学生・保護者・一般市民・来賓）
- (10) まとめの言葉
- (11) 終わりの言葉（守谷中代表生徒）

7 成果と課題

- (1) 各校がこれまで行ってきた独自の実践が、このフォーラムをきっかけに守谷市全体に広がり、「いじめ」をなくすための集会やNHK「百万人の行動宣言」への取組等が、学校種に応じて行われている。また、このフォーラムに参加した児童生徒が、その報告を各学校で行うこと自体が、「いじめ」の未然防止に対する積極的な啓発になっている。
- (2) 採択された「Moriya いじめ防止共同スローガン」、『～いじめゼロ守谷～ 勇気・笑顔・思いやりひとりひとりがつながって明るい花を咲かせよう！』はデザイン化し、各学校に掲示されており、児童生徒のいじめ撲滅への意識の高揚につながっている。また、教育委員会で作成した横断幕は、各学校だけでなく市役所ロビーにも掲示され、広く市民に児童生徒の決意を伝えている。また、フォーラム当日の様子は9月1日（月）の茨城新聞に大きく取り上げられた。
- (3) フォーラム実施への準備・リハーサルや当日の活動を通して、校種・学校を超えて、意見を述べ合ったり協力したり感心したりする児童生徒の姿が見られた。中高校生であっても、小学生の意見に真摯に耳を傾け、それを話し合いに生かしていこうとする代表生徒の姿は感動的であつた。参加したすべての児童生徒が、自己有用感を高め、各学校の「いじめ防止」への取組を継続・発展させるための契機となつていた。
- (4) 当日参加した来賓の方々や保護者からも、児童生徒の活動に称賛の声をたくさんいただいた。今後、今回採択されたスローガンの趣旨を生かし、各学校が実際に「いじめゼロ」を達成させるべく具体的な取組を継続させていくことが必要である。また、地域社会全体にその精神を広げていくことは、地域に根ざした公立学校として大きな意義があると考えられる。



【9/1の茨城新聞】



【いじめ防止共同スローガンの発表】



【意見を述べる代表生徒】

また、地域社会全体にその精神を広げていくことは、地域に根ざした公立学校として大きな意義があると考えられる。